新庄小

センス・オブ・ワンダー（感じる心）の樹の紹介（～１月）

～　美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目をみはる感性を育むために　～

雪がくるくる回ってふっていた。まるで、雪がおいかけっこをしているようだった。（３年女子）

ゆきにうもれていた花がさいていた。すごくさむいのにすごいなとおもった。
（１年男子）

ゆきでつくったかまくらはつめたいのに、中はとてもあたたかくてふしぎだな。
（１年女子）

やねの下に長さのちがうつららがたくさんできていた。まるできょうりゅうのきばみたいでおもしろかった。（２年男子）

にわのつばきにつぼみができていた。春にさく花なのに、こんなに早くからつぼみが大きくなっているなんてすごいな。
（２年男子）

鳥越神社にはつもうでに行った。高い場所から見た新庄のけしきは、とてもきれいだった。
（２年男子）

車の中から外を見たら、木につもった雪がまるで白い花がさいているようでとてもきれいだった。（３年女子）

ゆきの上にごろんとねころんで、空を見た。くもが、アイスクリームみたいでおいしそうだ
（１年女子）

花や葉を支えているのは枝、枝を支えているのは幹、幹を支えているのは根。花や葉や枝や幹は見えますが、根は見えません。見えない根を太く丈夫に育てることで、美しい花が育ちます。子どもの感性（感じる心）を育てることも、木の根を太く丈夫に育てることと似ているように思うので。

新庄市立新庄小学校
The sense of wonder だより
第７号　Ｈ３１.１.１１